

検証①

「当たり前」を振り返るためのワークシートを作成

【647】 あたりまえってすごいこと!!

Q. あなたの「あたりまえ」だと思っている行動や考え方について3つ書いてみよう!
あなたの「あたりまえ」は、じつはスゴキなことかも!!

1 ▶

2 ▶

3 ▶

作成日: _____ / 記入日: _____

【648】 あたりまえってすごいこと!!

Q. おもてで書いたあなたの「あたりまえ」を、あなたの長所として言葉にしてみよう!!

1 ▶

2 ▶

3 ▶

【長所を話す言葉たち】 ありがとうの言葉から始めてはみるものもおすすめです!
何んでもチャレンジする! 諦めない! 人にやさしくする! きれい好き! 最後まで諦めず頑張ること!
ぶさばさい! ありがとう! 頑張る! 我慢強い! 言い合いを避けたりする! きちんとしている!



↑ 検証の様子 (2024.07.23)

課題点：日常の振り返りが難しい

「当たり前」という抽象的なお題に小学生達は苦戦しており、空欄を埋めるのに時間がかかってしまっていた。



解決策：

より具体的なお題を用意する。”モノ”を通した振り返りを行うやり方が効果的なのではと考える。

当初のターゲットであった小学校3-4年生を対象に、7月中旬に地域の学童の協力の元で、日常生活の過ごし方を振り返る=それぞれの「当たり前」を振り返って共有を行い、長所を見出すワークを作成して検証を行なった。

検証 ②

お題の作成

お題：写真フォルダの中で、最も

笑える・癒される・エモい・イケてる

写真を一枚ずつ選んでください。

課題点：言語化とフィードバックに苦戦

①より振り返りやすくなっただが、この段階では写真だけを用意する形であったため、話した内容を話している当人や相手さえも忘れてしまい、フィードバックが困難だった。

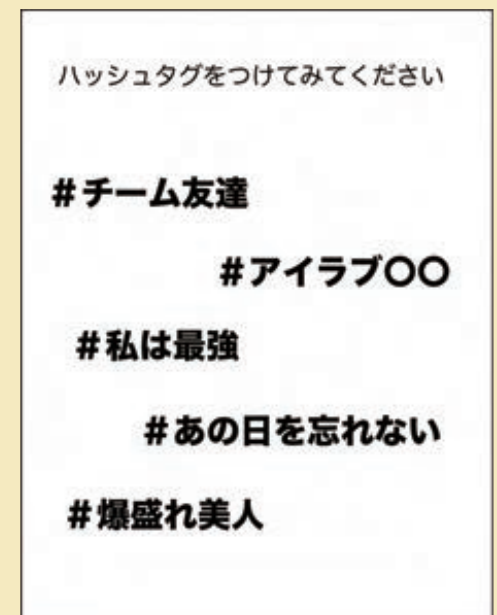
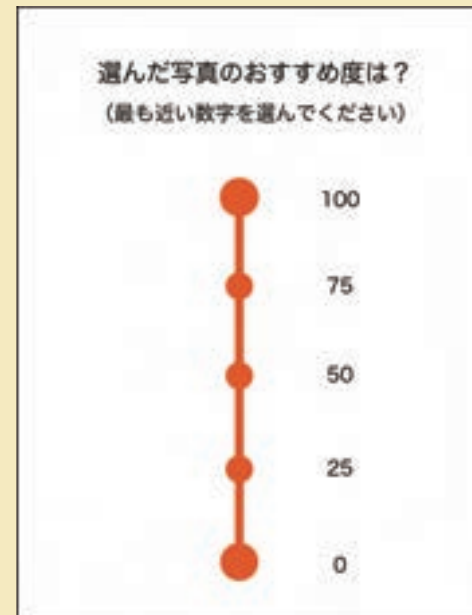
解決策：

話した内容を印象に残せるような仕組みを作成

前期で課題として上げていた日常の振り返りの難しさを解決するため、“写真フォルダ”を自己理解の手段として決定後、お題を4種類作成した。

検証③

質問カードの作成



課題点：深ぼりにばらつきが生じる

1 と 2 の質問が似ているために回答に差が出ないことに加え、3、4 の質問は相手の深掘りに効果的ではないことが検証で判明した。



解決策：

最も価値観が回答で反映されていた1のみを残して一つのワークシートを作成することに決定。

話した内容を言語化だけでなく、可視化をすることがより良いフィードバックに繋がると考え、相手についてさらに深ぼることのできる質問カードを作成。②での一枚のお題の写真につき、質問カードを一枚使用するというやり方で検証を行なった。

検証④

ワークシートの作成

写真の表情

いつ どこで どんなときに?

どうして選んだの?

写真を撮ったときの気持ちを絵文字で表してみよう！
（絵文字カードの中から3つ選んで下の○に配置してください）

① ② ③

①を記入した理由

②を記入した理由

③を記入した理由



↑絵文字カードを作成

課題点：フィードバックの重要性に気づく

研究の醍醐味として「相手からの客観的視点を取り入れた自己理解ツール」であるのに対して、どう思ったかというだけの抽象的な質問のみはいかがなものかと考え始める。

解決策：

ワークの数を増やしてフィードバックの重要性を全面的に出したものにす。

それぞれのお題につき、一枚ワークシートを作成。よりワークをスムーズに行えるようにした。

検証⑤

お題の変更 / ワークの数と枚数を追加

わたしにとって **な写真**

(例：遊ばれる / 元気をもらえる / 一番エモい)

ここにスマートフォンを置いてね!

ワーク1

いつ どこで

どんなときに撮った写真?

ワーク2

どうして撮んだの?

ワーク3 写真を撮ったときの気持ちを絵文字で表してみて!
(用意された絵文字カードの中から正しいものを3つ選んでください)

① どうして撮んだの?

②

③

ワーク4

①

②

③

ワーク5

①

②

③



↑絵文字の種類を増やし
表現の自由の幅を拡大

課題点：ワーク5の質問が抽象的

自己理解拡大フェーズを追加し、最も重要なワークになったにも関わらず、抽象的な質問が並んだため、回答に時間がかかっている様子が見られた。

解決策：

ワーク4と5の内容を再検討し、より具体的に深掘りを行えるワークに帰る。

選ぶ写真に条件を付けずによりその人らしさが見える写真を提示してほしいという思いから、お題を私にとって〇〇な写真=思い入れのある写真に変更。ワークと枚数を増やしてよりフィードバックと自己成長に繋げるワークの重要性を増したものにした。

プロトタイプ①:

バインダー形式



↑絵文字カードを入れるための内ポケットを作成。

中間発表に向けて検証④で質問内容や手順を確定後、アウトプットのプロトタイプ第一弾としてバインダーファイルで制作。ワークシートを一枚一枚挟んだ状態での記入が出来るようにという理由でバインダーファイルを選んだ。

プロトタイプ②:

A4ファイル



←3年生2名に検証 (2024.12.03)

ワークシートを一枚一枚閉じた状態でも捲れるようにとファイル形式に変更。記入のしやすさは改善されたが、リングが固いため開け閉めが大変であったことや、ワークシートの枚数に対してファイルが分厚く、コンパクトさを追及したいがために再検討することにした。

最終形態：

バータイプ



ワークシートをスムーズに取り出し円滑に進められるようにバータイプに変更。よりコンパクトな形となった。

これまでの検証の様子：

